

IV分野 13-3分科会

PTA活動と人権

司会者 高垣 吉一 小紫 達矢
記録者 和田 道弘 藤原 信義
報告者Ⅰ 安岡 宏美 山本 比呂子
(淡路)

豊かな人間性と思いやりのある仲間作り
報告者Ⅱ 待場 孝之 (東播磨)
相手を思いやる心を育てる
～人の価値観は様々、お互いにその人
権を尊重できる心を～
報告者Ⅲ 吉岡 育子 武田 直美
(阪神)

PTA ガイドツアーをとおしてともに
育む人権の芽 ～学校に行こう～

研究討議の内容

<報告Ⅰについて>

但馬 取組を始めたきっかけは何ですか。今の状態になるまでどのくらいかかったのでしょうか。

報告者Ⅰ 似たような取組は以前からありましたが、思いを込めて徐々に変えていきました。ありのままを受け止めるということはずっと目指していきたい。これは大人でも嬉しいことです。周りの人に優しくなっていける根本の感情だと思います。

阪神 保育所の先生になる方は幼児教育に興味を持っていて、自分の思いがあっても、親御さんにはそれを言えないこともあります。それでも親御さんの様子を見て体調にも気遣いながら寄り添っていこうとされる素地ができています。思いを持った先生が子どもの様子を語り合いながら深めてきた取組だろうと思います。そのようなことが出来る職場が素晴らしいです。

阪神 子どもが二人いる母親です。義務感のように下の子をみる上の子がいます。そのまま認めてあげる方が良いのでしょうか。

報告者Ⅰ 他の子と遊べているので大丈夫だと思います。

司会者 ありのままを受け止めるというけれど、望ましくない行動でも受け止めていきますか。

報告者Ⅰ 気持ちは受け止めるけれど、したらアカンことはあかんと言います。何でもOKということではないです。こうしたかったらうけど、それはあかんことだと伝えます。すると子ども達は、気持ちは分かってくれるけど、やっぱりしたらあかんことやと分かってくれます。

阪神 画像から子ども達の生き生きとした様子が伝わり印象的でした。子どもの自己肯定感を育てるために、保護者・家庭との連携のありかたを教えて下さい。

報告者Ⅰ 絵本カードを使って週1回、子どもの好きな絵本を通して我が子と関わってもらっています。

但馬 今年の人権啓発ビデオを観ました。そのテーマが虐待でした。同席した保育園の先生は、お母さんに寄り添っていきたくて感想を述べられました。保護者の生活環境に原因があるような問題があれば、どのように対処していますか。

報告者Ⅰ 子どもの様子がおかしい時は、そのことを伝えるのではなく、保護者を気遣うようにしています。

阪神 子どもに暴力を振るうことはしませんが、言葉で追いつめてしまいます。暴力に至らないように周りの人が気づかせてあげることが大切だと思います。

報告者Ⅰ 外部の人が月1回来て、読み聞かせをしてくれます。他の人の話を聴けることも大事です。子ども達に心の栄養をいっぱい与えていきたいです。

西播磨 心意気をもったお母さん達が集まって読み聞かせをするというところが良いなと思っています。

西播磨 全今までの内容を聞いて思うことは、気になるお母さんの話をしっかり聞いてあげて、お母さんは悪いと捉えずに寄り添ってあげて、その背後にあるものに気づいてあげてほしいな

＜報告Ⅱについて＞

但馬 先の発表でもありましたが、生活全てが人権という言葉がありました。どこの PTA でも人権に関わる事業をしていると思います。例えば奉仕作業をしていますというような発表をよく聞きます。奉仕作業を人権とどう結びつけて考えていますかと問えば、答えられないことが多かった。PTA 事業はもっと他にもあります。それらがどう人権と結びつけた形で伝えられているのでしょうか。

報告者Ⅱ 報告の人権学習会の内容を家庭に持ち帰ってもらい、子ども達との話題にしてほしいとも思っています。生徒は日々教室でそのようなことを考える場面に接しているでしょうし、学校では毎年 9 月に自分の命を考える週間というのがありまして、思いを深める機会があります。人権について学んできた子ども達は、家庭でそれを話題にすることは少ない。言いにくいこともあるでしょう。ならば例えば親の方から、今日学校でセクシャルマイノリティーについて学んできたんだけど、これってどう思う、という風に話をするきっかけがあれば良いかと思っています。学習会はきっかけ作りです。他の専門部の皆さんにも研修会や学習会に参加してもらい、人権について考える機会にしています。

但馬 以前は人権という言葉が使えなかったし、何かしら分かってもらえるんじゃないかという表現をしてきました。例えば奉仕作業をする際に、学校では無言清掃をしています、今日はいろんな人とたくさん喋って下さいと伝えます。その中で何かしらを感じて欲しいと思っているからです。でもそれは難しいです。仲間作りができれば、ちょっとした問題が起きても、例えば先程マイノリティーの話をされましたが、実は僕ゲイなんだ、そんなの今さらいいいじゃないか、という話ができるんです。その仲間作りのきっかけが挨拶であったり、自分なりに肚落ちする言葉にはなりましたが、それをみんなに発信することは難しい。人権の事業をするだけでなく、やはり全ての PTA の事業を人権と関連させ

ることが必要ではないかと考えています。他の事業で人権と結びつけて他の保護者に発信をされていることはありますか。

阪神 研修で学んだことを家庭に持ち帰り、子どもと人権について話し合うきっかけにしています。

阪神 学校の先生とは違う一番身近な大人である親と対等に話ができるのが良いです。

但馬 人権というテーマを普段考えることは少ないので、この機会を生かして家庭に持ち帰りたいです。

阪神 今保護者がキーッとなって我が子のことしか見えなくなる時に、はたと人権について気づかせてくれる先生は「人権を育てる教師像」を感覚的に持っておられて、すばらしいことだと思いました。色々なことが全て人権に結びついていると考えることが大切だと思います。

司会者 中学校では制服があるので、LGBT のことが問題になると以前の兵人教の大会で話題になりました。そのようなタイミングで、報告のあった中学校ではこのビデオを鑑賞していらっしゃる。会話のきっかけにもなりますし大事なことです。

＜報告Ⅲについて＞

但馬 このガイドツアーという取組は良いです。この報告を 3 年前に聴いていたら、自分の子が中学生のうちに何か手が打てたかも知れないと思います。

先生なら長い方で 8 年ぐらいおられる。ならばその事業が始まった歴史を良く知っておられる先生がもっと PTA に協力して、思いを持った事業が続いていくことを願っています。

質問です。小学校・幼稚園にもオープンスクール案内をされていますが、一般に人にも出されていますか。

報告者Ⅲ 自治会の回覧板などで、全戸に周知しています。

但馬 おやじの会があるということは、やはり女性の役員が多いのでしょうか。

報告者Ⅲ おやじの会には、保護者も多く来て下さいますし、もっと高齢の方もご協力下さっています。

但馬 おやじの会があるということは女性ばかりで男性がさぼっているのかと思い質問しました。がんばってください。

阪神 昨年までおやじの会の会長をしていました。ガイドツアーをやったら良いと言いつ出した張本人でもあります。始めた理由は2つあります。ひとつは、幼稚園や小学校の会員から学校に行きたいという話があり、どう受け入れるかを考えたからです。ガイドツアーをすれば、受け入れる役員が嫌でも学校を知らないといけない。そうなればPTAの方々が活動しやすくなるのではと考えたからです。共感して下さる方が気軽に参加してもらえるようにしています。夜の活動もあります。

司会者 自分の学校での取組でも構いません。ご意見などございますか。

但馬 私も親同士の交流をしたいと思っています。親同士が仲の良い子ども同士が仲の悪いことはない。仲良くなるためには顔を合わす機会を増やすことです。それと併せて先生と話す機会も必要です。親同士や先生と顔を合わせて話すきっかけを作るのは本当に大切なことです。

司会者 それぞれの学校・PTAで特色があると思うのですが、いかがでしょうか。

阪神 先程からおやじの会などが紹介されましたが、学校としてとても助かっています。おやじの会は、お母さん方にはできない力仕事をお手伝い願えるのが強みです。体育祭の時はおやじの会の皆さんが自主的に無償で駐車場係をして下さいます。ありがたいことです。

阪神 前面に人権の為にやっていると押し出さなくても、難しく考えずにやんわりと伝わっていく活動をしていくのが大切で良いことだと思います。その時の今の様子を観ることの大切さを思います。

阪神 中谷中学校の卒業生で、隣の中学校のPTA会長をしています。最後までやり遂げた

いと思いますし、加入率が上がるような活動をしていきたいです

<参加者によるグループ交流>

司会者 お近くの方と車座になって、3つの報告を聞いた感想や意見を出し合って交流をして下さい。時間は10分ぐらいです。

総括と今後の課題

3つの報告を聴いて私が大切だと思うことを紹介します。報告Ⅰでは、ありのままを受け入れるということを言われました。悪いことをしても、その背景を考えながら受け入れる姿勢が素晴らしいです。それから保護者支援も取り上げていました。私も小学校勤務ですので、子どもの行動の背後に家庭の問題が潜んでいることを思います。子どもの問題は子どもだけの責任ではなく、親御さんも含めた問題として考えていく視点が参考になると思います。保護者の立場で参加されている方も、ご自分の状態が我が子に反映しているのではと省みられたことでしょう。

報告Ⅱでは、参加者集めや会場の数を工夫しながらPTAの人権啓発活動を進め、最終的に2回分で50名以上の参加があったとのことでした。中学生とその保護者を対象にLGBTについて触れることは勇気のいることです。そこを勇んで取り組み紹介されたことは大事なことだと思います。

報告Ⅲでは、ガイドツアーという面白い取組が紹介されました。私の勤務校ではないことなので参考になりました。昔、私の妻が中学校のオープンスクールに行ったところ、参加者が妻1人だったので、娘ににらまれたというエピソードを思い出しました。ガイドツアーの取組を通して、子どものありのままの姿を受け入れていくことが、人権に繋がっていくことになります。

3つの報告はどれも大変に素晴らしいものでした。報告者と参加者の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。